

### 安全上の注意

- 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく取り付けをおこなってください。
- ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすることを生じることが想定される内容を「警告」「注意」の2つに区別しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

#### 警告

● 人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。

#### 注意

● 人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

● 記号は行為を禁止する内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解・修理・改造禁止）が描かれています。

● 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

### 警告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと  
発火・感電したり、異常動作してけがをすることがあります
- メタルスズリ、ワイヤスズリ、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルスズリ、ワイヤスズリ、金属板とが電氣的に接触しないよう取り付けます
- レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けます
- 交流 100 V 以外では使用しないこと  
火災・感電の原因になります
- 自然排気型のストープを使用するときは、空気の取入口（給気口）により十分給気される配座をすること  
排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中等を起すおそれがあります
- 本体とダクトは、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと  
火災などの原因になります
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと  
漏電した場合、発火するおそれがあります

### 注意

- 作業は 2 人以上でおこなうこと  
製品は約 30.5kg の重さがあります
- ファンや部品の取り付けは確実にすること  
落下によりけがをすることがあります
- レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実にすること  
落下によりけがをすることがあります
- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください）  
感電および故障の原因になります
- 周囲温度が 40℃ 以上になると火災・故障の原因になります
- 運転中は指や物を絶対に入れないこと  
けがをすることがあります

### 注意

- 取り扱いは必ず厚手の手袋をすること  
鋼板の切り口や角でけがをすることがあります
- ファンや部品の取り付けは確実にすること  
落下によりけがをすることがあります
- レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実にすること  
落下によりけがをすることがあります
- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください）  
感電および故障の原因になります
- 周囲温度が 40℃ 以上になると火災・故障の原因になります
- 運転中は指や物を絶対に入れないこと  
けがをすることがあります

### 取り付け上のお願い

- 下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的資格者がおこなう必要があります。
  - ・大工工事【設置のための地下工事等】
  - ・配線工事【コンセントの設置、コネクタ・コネクタ利用以外の配線接続等】
  - ・管工事【ダクト配管およびレンジフードからのダクト接続等】
 流通業者（販売店）を通して組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。
- ダクトの不燃処理について
  - ・ダクトを 20～25mm の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください。
  - ・施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」「検査要領書」に従ってください。
- 調理機器の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。調理機器はレンジフードの前面より手前にはみ出して設置しないでください。排気効率が低下します。
- 屋外壁面の排気出口に取り付けるベントキャップまたはパイプフードの通気抵抗は 400m<sup>2</sup>/h 時 50Pa 以下のものをご使用ください。防虫網付きのものは目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。
- 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に屈曲したダクトは排気効果をいじしく低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。
- 製品組立時のねじ取り付けの際は、インパクトドライバー等できつく締めすぎないでください。ねじ山を損傷するおそれがあります。  
(推奨締め付けトルク M4: 1.2～1.6N・m、M5: 1.8～2.2N・m)
- 製品は調理機器の真上に取り付けてください。  
なお、製品取付高さは、製品の下端が調理機器の真上 80cm 以上になるようにしてください。

● レンジフード下部には、湯沸器を絶対に取り付けてないでください。  
また、横方向 50cm 以上離して取り付けください。  
湯沸器の真上は高熱になるため故障の原因になります。

● 電源は専用コンセントおよびブレーカーを設けてください。  
火災・故障の原因になります。

● 製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください。

● 部屋の中央で料理される場合は油煙が捕集できませんので、お台所の全体換気のために他の換気扇と併用していただくには、よりすぐれた換気ができます。

● 建物が密閉されている場合は必ず、約 400cm<sup>3</sup> 程度の空気取入口を設けてください。

● 寒い地域ではダクトが結露し本体内に結露水が流れる場合がありますので断熱材を巻くなどの対応をしてください。

### 取り付け前の調査と準備

#### 警告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと  
発火・感電したり、異常動作してけがをすることがあります
- レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けます
- 本体とダクトは、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと  
火災などの原因になります
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと  
漏電した場合、発火するおそれがあります
- 排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的資格者が工事をおこなうこと  
火災などの原因になります

#### 注意

- 取り扱いは必ず厚手の手袋をすること  
鋼板の切り口や角でけがをすることがあります

#### 周辺環境の確認

- 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けないこと  
火災・故障の原因になります
- レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実にすること  
落下によりけがをすることがあります

#### 1 取付面の強度確認

製品を支える強さが必要です。 **製品質量 30.5 kg**

#### 2 吊りボルトの設置

レンジフードの本体は M10 または M12（市販品）の吊りボルト 4 本を使用し、天井内の梁などへ取り付けます。  
※吊りボルトは耐荷重 200kg/本となるように取り付けてください。

#### 3 別売部品の準備

排気工事に応じた別売部品の準備が事前に必要です。

#### 4 標準取付寸法

本製品の標準取付寸法は、調理機器の上面から製品の下端まで 80cm 以上です。  
※火災予防条例で、グリッドフィルターの下端が調理機器の真上 80cm 以上必要となっています。

#### 5 電源コンセント・ブレーカー

電源コンセント・ブレーカーは専用のものを設置してください。  
交流・単相 100V  
コンセントは、JIS C 8303 2 極差込接続器 15A 125V をご使用ください。

### 製品寸法図

（単位：mm）

ダクトカー・標準	製品総高さ A	取付高さ B	天井高さ C
CDCB-115*	1650	2200-2250	2250-2300
	1700	2300-2350	2350-2400
	1800	2400-2450	2450-2500
	1900	2500-2550	2550-2600
CDCB-195*	1650	2330-2410	2410-2490
	1700	2480-2460	2460-2540
	1750	2430-2510	2510-2590
	1800	2480-2560	2560-2640

※取付寸法は一例です。上記以外の取付寸法の場合は、製品寸法図を参照してダクトカーを選択し、調整してください。ダクトカーとダクトを接続する「※」には必ずお読みください。

### 各部のなまえ

電源プラグ、ファン、誘導カートリッジ、運動信号受信部、フード、前カバー、スイッチ、LEDランプ、整流板、オイルパック

### 1. 付属品の確認

#### 注意

- 取り扱いは必ず厚手の手袋をすること  
鋼板の切り口や角でけがをすることがあります
- 作業は 2 人以上でおこなうこと  
製品は 30.5kg の重さがあります

- 前カバーに固定テープで貼り付けられている取付説明書を取りはずします。
- 取付説明書が包装されているポリ袋から付属品を取り出し、上項の付属品一覧により不足がないか確認します。  
● お願い  
・フード前後に貼り付けられている保護用エアキャップはキズ・破損防止のため、お客様への引き渡しまでははずさないでください。  
・床で作業する場合、本体および床にキズを付けないため、必ずシートを敷いた上で作業をおこなってください。  
・取付作業の際はキズ・破損のないように十分注意してください。

### 2. 取付準備

#### 警告

- メタルスズリ、ワイヤスズリ、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルスズリ、ワイヤスズリ、金属板とが電氣的に接触しないよう取り付けます
- 排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的資格者が工事をおこなうこと  
火災などの原因になります
- 本体とダクトは、可燃物との間を 10cm 以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと  
火災などの原因になります

#### 注意

- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください）  
感電および故障の原因になります
- 周囲温度が 40℃ 以上になるところには取り付けないこと  
火災・故障の原因になります

#### 1 製品寸法図を参照し、事前に施工業者（法的資格者）へ天井へのダクト穴の開口を依頼してください。

また、天井開口部近くの補強材または野縁等に専用コンセントを設置してください。

#### 2 φ150 のステンレスダクト、またはパイプフードを天井の開口部に挿入し、天井の開口部を閉じます。

また、天井開口部近くの補強材または野縁等に専用コンセントを設置してください。

#### 3 M10 または M12 の吊りボルト（取付作業側の手配）を 4 本、天井内の梁などの頑健な部分に固定します。固定ビッチは前後、左右とも 290mm です（製品寸法図参照）。

### 取り付けかた

#### 1 フードを取りはずします。

- 1) フードを前方へ 10mm 程度スライドさせ、前側を持ち上げフードを開きます。（図 3-6）

#### 2 電気配線のコネクタ 4ヶ所をはずします。（図 3-7）

● お願い  
コネクタをはずす際は、ツメの部分を押しながら、まっすぐ引き抜いてください。無理に引っ張ると、コードを持って引き抜くと断線するおそれがあります。

#### 3 フード奥側の引掛け金具をはずしながらフードを上を持ち上げ、本体からはずします。（図 3-7）

#### 4 ソフトテープを貼り付けます。（図 3-8）

● お願い  
輸送用の固定テープがついているので、ソフトテープを貼る前に必ずはずしてください。はがさずにダクトを接続すると、排気不良や異常音の原因になります。

### 3. 本体の準備

#### 1 整流板をはずします。（図 3-1）

● お願い  
※レンジフードを壁に固定する際に整流板が上になるように置いて作業してください。

- 1) 整流板を固定しているテープを取り除きます。
- 2) 整流板の前側を固定している左右の突起を押し込みながら前側をゆっくりに持ち上げ、ロックをはずします。
- 3) 整流板を開いた状態で、整流板吊り金具から取りはずします。

#### 2 誘導カートリッジをはずします。（図 3-2）

- 1) オイルパックを固定しているテープを取り除きます。
- 2) 取付ねじを右図①、②の順番ではずします。
- 3) ストッパーを押しながらゆっくりに上へ引き出します。

● お願い  
誘導カートリッジはキズをつけないよう、ゆっくりに引き出してください。

#### 3 本体の前カバー・後カバーをはずします

- 1) 前カバーは取付ねじ（トラス M4 × 10）2本をはずし、斜め上へずらしながら取りはずします。（図 3-3）
- 2) 後カバーは取付ねじ（なべ M4 × 8）4本をはずし、左右に少し広げようようにしながら後方へ取りはずします。（図 3-4）

● お願い  
取りはずしたねじは、「6. 運転準備」にて再度使用しますのでご注意ください。

#### 4 フードと本体を分離します。（図 3-5）

取付ねじ（トラス M5 × 12）4本をはずします。

● お願い  
取りはずしたねじは、「4. 本体の取り付け」にて再度使用しますのでご注意ください。

#### 5 M10 または M12 のナット（取付作業側の手配）を吊りボルトのマーカ位置までねじ込みます。（図 4-3）

● お願い  
取付完了時、調理機器上面から本体下面まで 800mm 以上にならない場合は調整してください。

#### 6 ダクトにダクト継手を取り付けます。（図 4-4）

● お願い  
付属品のダクト継手は、ダクトと本体の排気口とを 30mm オフセットして取り付けます。取り付ける際は、位置関係を確認して取り付けてください。

● お願い  
ダクト継手を固定する際は製品寸法図を参照し、取り付けの向きに注意してください。製品を取り付ける際、排気口と位置が合わず接続できなくなります。

#### 7 本体を吊りボルトに固定します。（図 4-5）

- 1) 本体を持ち上げて 4ヶ所の吊り金具に吊りボルトを差し込み、吊り金具を嵌め込むように吊りボルト下側から M10 または M12 のナット（取付作業側の手配）をしっかり締め付けます。

● お願い  
ダクト継手に排気口を差し込みながら本体を取り付けてください。

- 2) 分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグを専用コンセントに差し込みます。

#### 8 ダクトカーと本体を固定します。（図 4-6）

付属品のトラスねじ（M4 × 10）4本で前後各 2ヶ所を固定します。

#### 9 フードを取り付けます。（図 4-7）

- 1) フード奥側の金具を本体の引掛けねじに引っ掛けます。
- 2) コネクタ 4ヶ所を差し込みます。

● お願い  
コネクタの接続は確実にしてください。接続が不十分な場合、レンジフードが動作しない、発熱による故障などの原因になります。また、電源線、信号線は挟まないようご注意ください。  
● コネクタを挿入する際は、ツメの向きを合わせて確実にロックしてください。

#### 10 吊りボルトにマジックペンなどで、天井から X の値の位置にマーカを付けます。（図 4-1）

● お願い  
レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実にすること  
落下により、けがをすることがあります

#### 11 吊りボルトにマジックペンなどで、天井から X の値の位置にマーカを付けます。（図 4-2）

● お願い  
レンジフードの取り付けは十分強度のあるところを選んで確実にすること  
落下により、けがをすることがあります

#### 12 ダクトカー（別売品）を取り付けます。（図 4-2）

ダクトカーを座付ねじ 4本で天井面に固定します。  
座付ねじはダクトカーに付属しています。

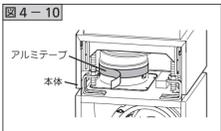
● お願い  
切り欠きのある面をレンジフード本体の前後方向に向けてください。向きを間違えると本体との固定ができなくなります。

#### 13 本体の準備」の手順 4にてははずした取付ねじ（トラス M5 × 12）4本で下から固定します。（図 4-9）

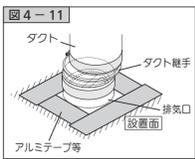
**こちら側は裏面です。必ず表面からお読みになり、正しく取り付けをおこなってください。  
安全上のご注意・取り付け前の調査と準備・取り付け上のご願いは表面をご覧ください。**

## 取り付けかた (つづき)

**8** ダクト継手接合部へ風漏れ防止のテーピング (アルミテープ) をおこなってください。(図 4-10)



■ 排気口設置面の漏風確認のお願い (図 4-11)  
ダクトを接続する際に無理に接続しようとする  
と、ダクト継手、排気口および排気口の設置面  
(フード天面等) が変形し、風漏れが発生して  
しまう場合があります。  
風漏れ確認のために、ダクトの接続後は試運転  
(強運転) をおこなってください。  
漏風する場合は、排気口と設置面の周りをアル  
ミテープ等 (現場調達品) で漏風防止処置をお  
こなってください。



### 5. 電気配線

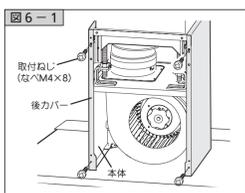
#### 警告

- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと  
発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります
- 交流 100 V 以外では使用しないこと  
火災・感電の原因になります
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が  
工事をおこなうこと  
誤った配線工事は感電や火災の原因になります
- アースを確実に取り付けること  
故障や漏電のときに感電するおそれがあります  
アースの取り付けは販売店にて相談ください

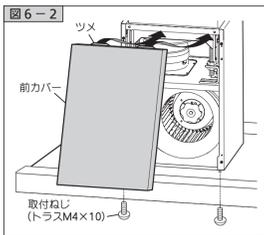
- 1** アース (D 種接地工事) を取ります。  
※アース線は取り付け作業側にて手配します。
- 2** 分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。  
**お願い**  
● 電源は専用のコンセント (2 極差込接続器 15A、125V) およびブレーカーを  
設けてください。  
● コンセントは電源コードの長さを考慮して設置してください。

### 6. 運転準備

**1** 本体に前カバー・後カバーを取り付け  
ます。(図 6-1)  
1) 各部品が確実に組み立てられている  
か確認した後、本体の後カバーを「3.  
本体の準備」手順 **3** の 2) には  
ずした取付ねじ (なべ M4×8) 4  
本で固定します。

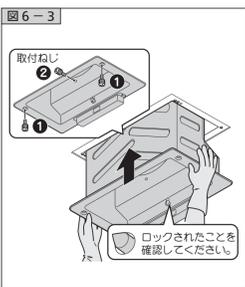


2) 前カバーは上部のツメを引っ掛  
け、下側を取付ねじ (トラス  
M4×10) 2 本で固定します。  
(図 6-2)



**2** 誘導カートリッジを取り付けます。  
(図 6-3)

1) 誘導カートリッジを両手で持ち、  
開口部に差し入れます。  
内側にあるストッパーで固定さ  
れるまで、まっすぐにゆっくりと  
差し込みます。  
※ 誘導カートリッジがストッパ  
ーで確実に固定されたことを確認  
してください。



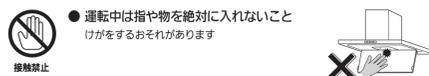
2) 取付ねじを①、②の順番で固定し  
ます。  
**お願い**  
誘導カートリッジはゆっくりと差  
し込んでください。キズ・変形の  
原因になります。

**3** 整流板を取り付けます。  
「3. 本体の準備」で取りはずしたときと逆の手順で取り付けます。

**お願い**  
整流板の固定は確実におこなってください。ロックが不十分ですと整流板の  
落下の原因になりますので、取り付け後、再確認してください。

### 7. 試運転

#### 注意



- 分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。  
スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。
- 運転時、各速調の排気が正しくおこなわれていることを確認してください。
- 異常な騒音、振動がないことを確認してください。
- 屋外の排気出口から排気され、異常がないことを確認してください。
- 取り付けまたは各種工事にて発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となり  
ますので十分確認してください。

### 8. お客様への説明

- 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
- 取扱説明書と共に、この取付説明書を必ずお客様へお渡しください。

【製造元】 富士工業株式会社

本社・営業部 〒 252-0206 相模原市中央区淵野辺 2 丁目 1-9  
TEL 042(768)3754 (営業部)